

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について

1 調査対象（令和4年4月19日実施）

	対象学校数	児童生徒数
小学校（第6学年）	306校	約14,900人
中学校（第3学年）	161校	約15,100人

2 教科に関する調査

（1）平均正答率

<小学校>

		平均正答率（％）					
		本年度	R03	R01	H30		
国語	本県	66	65	65	A 知識	本県	71
	全国	65.6	64.7	63.8		全国	70.7
算数	本県	62	69	65	B 活用	本県	54
	全国	63.2	70.2	66.6		全国	54.7
理科	本県	63	/	/	知識・活用	本県	62
	全国	63.3				全国	60.3

<中学校>

		平均正答率（％）					
		本年度	R03	R01	H30		
国語	本県	70	66	73	A 知識	本県	77
	全国	69.0	64.6	72.8		全国	76.1
数学	本県	52	58	60	B 活用	本県	63
	全国	51.4	57.2	59.8		全国	61.2
理科	本県	52	/	/	知識・活用	本県	67
	全国	49.3				全国	66.1
英語	本県	/	/	57		本県	69
	全国			56		全国	66.1

※各年度の平均正答率は、文部科学省が公表した数値を示している。

※英語は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の結果である。

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響のため実施なし。

【全体的な傾向】

<小学校>

- 国語は、全国平均と同程度であった。
- 算数は、全国平均を下回った。
- 理科は、全国平均と同程度であった。

<中学校>

- 国語は、全国平均を上回った。
- 数学は、全国平均を上回った。
- 理科は、全国平均を上回った。

<その他>

- 無回答率については、小中学校ともにほぼ全ての設間で全国平均より低くなっている。

【現中学校3年生の小学校6年生当時(令和元年度)の調査結果との比較】

- 国語は、小学校6年生当時は全国平均を上回っており、現中学校3年生でも引き続き同程度上回った。「書くこと」の領域について、6年生当時では全国比 -0.1 であったが、中学校3年生では $+1.4$ となった。
- 算数・数学は、小学校6年生当時は全国平均より下回っていたが、現中学校3年生になり全国平均を上回った。また、全国平均正答率より上回った問題数が4問と増え、全国と比較し正答率が $+3.5$ と大きく上回った設問も出た。

(2) 全国平均正答率との比較

- 各教科で全国平均と比較し、上位・下位の2項目を表に記載する。

<小学校>

教科	正答率 (全国比較)	設問	出題の趣旨
国語	68.5%(+3.3) 60.1%(+1.4)	3三 ア イ	・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正し (ろくが) (はんせい)
	79.2%(+1.3)	3四	・漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く
	68.8%(-1.8)	2一 (2)	・登場人物の相互関係について、描写を基に捉える
	66.8%(-2.0)	1二	・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える
算数	72.9%(+1.8)	2(1)	・百分率で表された割合を分数で表すことができる
	58.7%(+1.1)	4(4)	・示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる
	45.4%(-2.6)	2(4)	・伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる
	46.2%(-2.6)	4(1)	・正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる
理科	77.6%(+1.5)	1(4)	・提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる
	63.5%(+1.5)	4(4)	・水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している
	43.8%(-1.7)	4(3)	・観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる
	62.6%(-5.2)	2(1)	・メスシリンダーという器具を理解している

<中学校>

教科	正答率 (全国比較)	設問	出題の趣旨
国語	85.5% (+3.4)	2 二 ①	・文脈に即して漢字を正しく書く (のぞく)
	82.9% (+2.4)	②	(よるこんで)
	76.0% (+2.2)	3 四	・場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する
	61.2% (-0.8)	3 三	・場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える
	39.0% (-0.4)	4 一	・行書の特徴を理解する
数学	55.7% (+3.5)	1	・自然数を素数の積で表すことができる
	75.7% (+2.5)	9 (1)	・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している
	36.7% (-1.2)	4	・一次関数の変化の割合の意味を理解している
	41.4% (-2.7)	7 (2)	・箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる
理科	84.5% (+4.4)	3 (1)	・化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に、化学反応式で表すことができる
	43.0% (+3.8)	8 (3)	・未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できる
	39.9% (-0.9)	2 (2)	・継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できる
	34.2% (-1.7)	7 (1)	・液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を考える際に、状態変化に関する知識を活用できる

3 質問紙による調査（全国平均と比較して特徴の見られるもの）※【 】全国平均との差

(1) 児童生徒質問紙

<小学校>

- ・今住んでいる地域の行事に参加している。【+6.2】
- ・国語の勉強は好きである。【+5.5】
- ・読書は好きである。【+3.7】
- ・土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日に2時間以上勉強をしている。【-2.0】

<中学校>

- ・理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。【+6.3】
- ・理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察している。【+6.3】
- ・土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日に2時間以上勉強をしている。【+5.1】
- ・携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。【-2.2】

<小中学校共通>

- ・昨年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。【小+4.7、中+5.4】

- ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。

【小-2.8、中-5.4】

＜小中学校共通（ICT活用に関わる設問）＞

- ・学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週3回以上使用している。【小+7.2、中+5.7】
- ・学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週3回以上使用している。【小+6.8、中+5.9】
- ・学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週3回以上使用している。【小+4.7、中+3.2】

（2）学校質問紙

＜小学校＞

- ・調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした。【+5.9】
- ・調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思う。【+5.9】
- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童が相談したい時に相談できる体制となっている。【+5.0】
- ・個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している（オンラインでの参加を含む）。【-13.0】

＜中学校＞

- ・調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度に、生徒が観察や実験をする授業を1クラス当たり週1回以上行った。【+18.7】
- ・調査対象学年の生徒の保護者に対して、前年度までに、生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った。【+7.1】
- ・調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行った。【+6.5】
- ・地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動（学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、学校行事の運営等）を行った。【-9.9】

＜小中学校共通＞

- ・前年度までに、近隣等の小学校（中学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行った。

【小-15.7、中-15.1】

＜小中学校共通（ICT活用に関わる設問）＞

- ・調査対象学年の児童（生徒）が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用させた。【小+12.5、中+23.5】
- ・児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、毎日持ち帰って、ほぼ毎日家庭で利用させている。【小+10.0、中+18.1】
- ・ICTを活用した校務の効率化を通じて、家庭への調査等に関する事務（個人面談等の日程調整や学校評価アンケートなど）が軽減した。【小+12.6、中+16.3】

4 今後の取組

＜県教育委員会＞

- 「全国学力学習状況調査」解説動画の配信及び授業改善リーフレットの提供

教科分析部会において本調査の調査問題を分析し、各学校での児童生徒の学力向上及び教職員の授業改善を支援するため、「毎日の学習に役立つ!!『全国学力・学

習状況調査』の解説動画」を作成し、学校向け、保護者・児童生徒向けの紹介リーフレットを配付するとともに、7月上旬よりYouTubeにて公開している。（小学校：国語3本・算数4本・理科4本、中学校：国語4本・数学5本・理科4本）

また、本調査の結果を分析し、全体的な傾向やさらなる学びの充実のための授業改善のポイント等を示したリーフレット「指導の充実 ステップ1・2・3!!」を作成し、今後、各学校に周知する予定である。

○提供資料の有効活用の検討

教科分析部会で作成した「毎日の学習に役立つ!!『全国学力・学習状況調査』の解説動画」及び「指導の充実 ステップ1・2・3!!」を学校現場で有効に活用してもらう方法や、今後の各学校における授業改善に向けた対応策を具体的に協議する有効活用検討部会を実施する。

○「ICTを活用した群馬ならではの新しい学び」の推進

全ての学校において1人1台端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が図られるよう、その参考となる指導資料「『はばたく群馬の指導プランⅡ』ICT活用Version」（義務教育課HP掲載）の活用を促進するとともに、ICT活用促進プロジェクトのモデル校（34校）における授業実践や研究等の成果を全県へ普及する。また、ICT教育推進研究協議会において、ICT教育の推進に向け県の方向性について共通理解するとともに、新しい学びの実現に向け、ワーキンググループ会議や利活用研究会を開催し、ICTを活用した各教科等の指導についての現状や課題等について明らかにし、その解決に向けて協議する。

○小中学校長会との連携

小学校長会、中学校長会理事研修会等で、「毎日の学習に役立つ!!『全国学力・学習状況調査』の解説動画」及び「指導の充実 ステップ1・2・3!!」の活用方法について説明する。また、調査結果等の課題を踏まえた取組について検討していただくよう依頼する。

○総合教育センターにおける教員向け研修の一層の充実

現在、総合教育センターにおいて実施している教職員向け研修について、各市町村教育委員会や、小学校長会、中学校長会理事研修会等を通じて、それらを有効活用するよう促すとともに、今日的な教育課題に対応した研修内容及び研修方法の充実を図る。

<市町村教育委員会>

- 国から送付された各市町村の結果を、国や県全体の結果と比較するなどして、各市町村教育委員会の課題を明確にし、教育施策の改善に取り組む。

<学校>

- 県教委作成の「毎日の学習に役立つ!!『全国学力・学習状況調査』の解説動画」や「指導の充実 ステップ1・2・3!!」を活用し、児童生徒の学力向上及び各学校における授業改善を図る。
- 自校の結果と国や県全体、市町村の結果との比較、課題のある設問の分析、正答数分布の分析など、様々な面から調査結果を分析することにより、自校の課題を明らかにする。
- 分析結果を基に、これまでの取組を検証し、各学校が設置している学力向上委員会を核に組織的・継続的に授業改善に取り組む。
- 児童生徒一人一人の結果を示した個人票等を活用し、個々の児童生徒の学力の状況を把握し、日々の指導に生かす。